

令和6年度 湯梨浜町立湯梨浜中学校 学校評価自己評価表

○校訓・教育目標		○校訓『三智創造』 ○教育目標 (1)知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさをも身につけた生徒の育成 (2)人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成 (3)ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成 ○めざす生徒像(1)【立志】 (2)【親愛】 (3)【創造】 (4)【郷土愛】										
今年度の重点目標		今年度の努力事項			具体的な方策		評価指標		中間 評価	最終 評価	総合 評定	学校の所見(最終評価の理由、成果、課題とその改善策)
		項 目	現状とめざす姿 T(教師)・S(生徒)									
1	自らの道を切り拓く確かな学力の育成	①校内授業研究等により協同学習の授業づくりに努め、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。	現状	・校内授業研究会が協同学習の共通実践につながるものになっていない。…T ・12月生徒アンケートでは「勉強はよくわかる」という質問に肯定的な評価をした生徒が79.7%、「協同学習は有意義だ」という質問に肯定的な評価をした生徒が90.7%であった。…S	・「みんなで力を出し合って、仲間の学びに+α！自分の学びに+α！つなげよう、深めよう、みんなの思考！」という目指す授業の姿を生徒と教師で実践できている。…T、S	・企画委員会を活用して研究推進を進める。 ・授業研究会の内容(例：共通実践の状況把握、グループ協議、協同学習の理念について学ぶ機会を設定する等)についての見直しを行う。 ・転入職員への研修の機会をつくり、11月の研究会で杉江先生の指導講評を受ける。 ・校外のワークショップへの参加を推進する。	・学校生活アンケート「勉強はよくわかる」で肯定的回答が85%以上。「協同学習は有意義である」で肯定的回答が90%以上。 ・学校生活アンケートで共通実践に関する生徒からの授業評価を行う。 ・共通実践項目に対する教師の自己評価(ふり返り)を行う。	B	B		①学校生活アンケート「勉強はよくわかる」で肯定的回答が80.1%、「協同学習は有意義である」で肯定的回答は92.7%だった。教員を対象に学習課題に関する研修や協同学習についての研修を行い、定着をはかったことで、教師の自己評価でも協同学習の理念を意識しながら授業を行うことができたという意見が多かった。また、アンケートの肯定的回答が7月より12月の方が1.8%向上していたことから協同学習の理念を意識した授業が全校で行われていると考えられる。しかし、さらに魅力ある授業を行うために、生徒の主体的で深い学びを実現するための学習課題をどう設定するか、授業展開をどう工夫していくのか今後も研究、追究していく必要がある。	
		②学習規律の定着と家庭学習の充実を図るとともに、基礎学力の確実な定着に努める。		・2分前着席、分離礼が改善されてきている学年やクラスはあるが、全体として徹底できていないと言えない。…T ・授業中の私語や学習用具の忘れ物、離席などが目立つクラスがある。…S ・家庭学習が定着していない。…S	・生徒が50分間授業にしっかりと取り組める。…S ・学級が互いを認め合い高め合える学習集団になっている。…S ・生徒一人ひとりの学ぶ力と教科の力が伸ばせる授業ができている。…T ・家庭学習の習慣が定着し、学習に自主的に取り組める。…S	・「なぜ規律を守ることが必要なのか」(意義や目的)生徒への説明を徹底する。 ・学習担当から具体的な重点項目を出して、全職員で徹底をはかる。 ・具体的な課題を各教科で提示し、指導する。	・ハイパー・QU(2学期実施)の質問「学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答がどのクラスも全国平均より上回っている。 ・学校生活アンケート(12月実施)の「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目の結果が、前年度の結果よりもよくなる。 ・CRTで、全国平均以上。	B	C	B	②ハイパー・QU(2学期実施)の質問「学校の勉強には自分から進んでいる」の肯定的回答はほとんどのクラスで全国平均を上回っていたが、数クラス下回るクラスもあった。全国平均との差はわずかだったため、生徒が主体的に学ぶ授業を実施することで改善をはかっていた。学校生活アンケート(12月実施)の「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目の結果が、前年度の結果よりも数字はよい上回っている。しかし、家庭学習の習慣が身についているとは言えない部分もあり、来年度に向けて各教科で対策を考える必要がある。CRTでは、どの学年、教科も全国平均より下回った。今後、各教科で分析を進め、苦手分野のフォローアップを授業や朝読書の時間を使って行っていく。	
		③タブレット1人1台の活用を中心としたICT機器の効果的な利用を進める。		・ICTの使用頻度は上がっているが、うまく活用できているとは言えない。…T ・教員側は授業者によって、知識・スキル、そして取り組みの差が大きい。…T ・生徒がタブレットを文房具として使用する認識が低い。…S	・教員も生徒も、ICTまたは紙媒体のどちらを使用するかを場面に応じて判断し、より自分やねらいにあった方法を用いて学びを進めることができる。…T、S	・教職員はできることを増やしていくために、ICTの活用方法のチェックリストを定期的にチェックする。 ・自ら学ぶ姿勢を忘れず、この場面でICTを活用するとより効果があるのかを考える姿勢を養う。 ・様々な業務の中で、ICTを使用する頻度を増やしていく。	・町教委のアンケート「タブレットを使って、発表するためのスライドや資料を作ることができますか」の項目で、肯定的評価が90%以上、かつよくできるが50%を超える。 ・町教委アンケート「学習の指導をする際、1週間の授業の中で、どれくらいタブレット、またはPCを活用していますか。(1週間に2回以上)」の項目で、90%以上。	B	A		③町教委のアンケート「タブレットを使って、発表するためのスライドや資料を作ることができますか」の項目で、肯定的評価が93.8%で、さらによくできるが56.9%と1学期からあがっていた。また、「学習の指導をする際、1週間の授業の中で、どれくらいタブレット、またはPCを活用していますか。(1週間に2回以上)」の項目が97.3%だった。学校全体でICTの活用は進んでいる。今後も、研修などを通じて常に新しい情報を仕入れ、それぞれの授業に合わせて活用していく必要がある。生徒のICT端末の使い方のについても学習規律と併せて、生徒に意識を伝え続け、保護者にも学校生活より学習態度などで啓蒙を続け、協力を促しながら生徒を育てていく。また、冬休みから生徒のスキルアップのためにiPadの持ち帰りを実施し始めた。	
2	豊かな人間性の育成	①授業および教育活動全体で、道徳教育、人権教育の充実を図り、よりよい人間関係づくりに努める。	現状	・命や人権の大切さについてはほとんどの生徒が理解しており、実際に互いの個性や良さを認めたり、人の気持ちを大切にしたりしながら自分の思いを主張している生徒が多い。…S ・人権問題の知識や技能に関わる部分で不足している生徒がある。…S ・互いを思いやる行動が見受けられる一方、言葉づかいや他をないがしろにする言動が気になる生徒も多い。…S ・学校生活アンケートでは敬語や言葉づかいに気を付けているという生徒が非常に多いが、教職員はまだ不十分と感じている。…S	・命、人権の大切さを知っている。…S ・人権問題に関する基本的な知識や技能が身につけている。…S ・差別や不合理的に気づいたときに解決しようとするとともに、それを人に伝えるための方法を複数持っている。…S ・他の人の気持ちや意見を大切にしながら自分の思いを主張することができる。…S ・異なった立場の相手の考えと自分の考えの共通点を見出して互いに納得する答えを導き出すことができる。…S ・自他の違いを理解して互いの個性や良さを認めようとする。…S	・協同学習を中心に自ら学ぶ力の育成をはかる。 ・キャリア教育、特別支援教育の充実をはかる。 ・障がいのある人の人権問題など個別具体的な人権問題への理解：人権の概念等普遍的な視点の内容への理解の伸長をはかる。 ・自分や他の人の個性や良さを認める仲間づくりを実践する。 ・ボランティア活動の充実をはかる。 ・多様性に配慮した安心できる学校づくりに努める。 ・個に応じた指導の徹底をはかる。 ・道徳や学級活動の授業を軸に、部落解放月間・人権週間の取り組み、人権教育参観日、人権標語・人権弁論の取り組み、PTA人権教育研修会などを実施していく。	・人権アンケート(11月下旬～12月上旬実施)の各項目の結果が、前年度の結果よりもよくなる。 ・学校生活アンケート(12月実施)の「人権を尊重した生活を送るようになっている」「自分も他人も大切にし、他の人のために進んで行動している」「敬語や言葉遣いに気を付けている」の各項目の結果が、前年度の結果よりもよくなる。	B	B		①12月実施の人権教育アンケートの結果によると、おおむね昨年度の結果を上回っている。特に、「自分の夢や願いを実現する方法を知っている」「人権侵害についての相談窓口があることを知っている」の項目では5ポイント以上、「いくつかの人権問題について説明できる」「差別や不合理的に気づいたときに人に伝える方法をいくつ知っている」「差別や不合理的に気づいたときに人に伝えたり自ら行動したりして解決しようとしている」の項目は10ポイント近く上昇している。12月実施の学校生活アンケートの「人権を尊重した生活を送るようになっている」の項目では肯定的評価が95.8%、「自分も他人も大切に、他の人のために進んで行動している」では93.5%、「敬語や言葉遣いに気を付けている」では95.3%であった。人権をテーマとした全校集会を1学期中に2回もつことができ、部落解放月間の取り組み等、年間指導計画にしたがっての学習の進捗はおおむね良好である。しかし、暴言・暴力がある、日々の言動が気になる等、繰り返し指導の必要な生徒が一定数いる。見過ごさずに粘り強く指導していく必要がある。	
		②生徒会活動、学校行事、学級活動を充実させ、集団とともに個の成長も図る。		・執行部を中心に充実した生徒会活動ができたという一面もあるが、生徒個々にはそこまで自主的な活動ができているとは言えない。…S ・学校行事において、運動会を中心に生徒主体の活動をするのができたが、そのためには教員の入念な計画が必要だった。…T、S ・学級活動を通じて生徒をどう育てるのが明確になっていない。…T	・多様な集団活動の中で人間関係を形成することで、コミュニケーション能力が向上したり、リーダーシップなどを学べたりできる。…S ・学級や生徒会、学校をよりよくしていくための活動などを通して、集団や社会の形成者としての資質・能力が育まれている。…S ・生徒が集団の中で役割を担いながら個性を発揮し、相互に認め合うことなどを通して、自分らしい生き方につながるようになるとともに、自己有用感や自己肯定感が高まっている。…S	・学級活動で他者と関わる活動を通じて、自己肯定感、自己有用感を高める経験を積ませる。 ・生徒会活動においては、生徒全員を巻き込んだ活動を展開し、一人一人がよりよい集団をつくるという自覚を育む。 ・学校行事では、生徒会や実行委員会が企画・運営をし、段階的に全校生徒が関わる部分を増やしていく。 ・各教科等の年間指導計画を作成する際に、行事と関連する学習を当該行事の実施時期に合わせるよう配慮する。	・学校生活アンケート(7月、12月実施)の「校内の行事や生徒会・学級活動に積極的に参加している」の項目で、肯定的な回答が8割を超し、且つ12月アンケートでその数値が向上している。	B	A	B	②12月実施の学校生活アンケートの「校内の行事や生徒会・学級活動に積極的に参加している」の数値が全体で87.7%で目標値である8割を上回り、7月のアンケートよりも1.5%あがる結果となった。また、3年生においては92.3%と、昨年度を含めても初めで9割を上回る結果となった。しかし、1年生は7月のアンケートより数値が下がった結果となったため、生徒会の活動において、より下学年の生徒にも関わりやすい企画を設けたり、意見を反映しやすい環境を整備したりしていきたい。また、各教科でも、学校行事と関連する学習を当該行事の時期に合わせ実施し、生徒が積極的に参加できるように動機付けを引き続き行っていく。	
		③掃除の充実、時間の厳守、挨拶の徹底等の当たり前のレベルの向上を図る。		・掃除、時間、挨拶とともに、多くの生徒が意義を見出せておらず、言われたことを言われたようにやるだけの生徒が多い。中には言われても行動に移せない生徒も多い。…S ・「当たり前」のこととしてやろうとしている生徒もいるが、その思いがなかなか広がっていない。…S	・時間までに掃除を開始し、「時間いっぱい掃除」をめざして活動できる。…S ・朝読書や授業、終学活の開始など、時間を意識して行動できる。S ・挨拶の大切さを理解し、自分から挨拶をしたり、相手にあいさつを返したりできる。…S	・美化委員会、広報委員会、生活安全委員会を中心に、継続した一貫性のある取り組みを実施し、適宜活動を振り返りながら修正していくことで、掃除や時間を守ることの大切さ、互いに気持ちのいい挨拶をすることの良さを理解できる生徒が増えるようにしていく。	・学校生活アンケートの「自ら進んであいさつをしている」「自ら進んでそうじにがんばっている」「時間を大切にして、生活や学習に取り組んでいる」のすべての項目の結果において、肯定的な回答をする生徒が90%以上になる。	C	B		③学校生活アンケートの「自ら進んであいさつをしている」の項目では肯定的評価が87.9%、「自ら進んでそうじにがんばっている」では86.2%と、いずれの数値とも7月のアンケートよりも1.0～1.5%あがる結果となった。生徒会を中心とした移動運動や美化カードを実施したことが要因として考えられる。しかし、職員対象のアンケートでは、美化の取り組みが不十分であるという意見があった。掃除道具入れの点検、美化の手順や役割分担の具体を掃除用具入れに貼るなどして示す取組を行っていくことで改善を図っていく。また、「時間を大切に」と、生活や学習に取り組んでいる」についてはほぼ92.1%であり、7月より2.0%が下がった。これについても、1学期の生徒会企画のように時間に関する何らかの取組を行っていた。	
3	健やかな体の育成	①保健体育の授業、部活動をはじめとする様々な教育活動を通して基礎体力を高めるとともに、食育の推進を図る。	現状	・体力テストを見ると、全国平均を下回る種目が多い。特に、筋持久力が3学年とも下回っている。…S ・食べ残すことに抵抗がない生徒がいる。…S	・体力テストで、全種目、男女とも全国平均を上回っている。…S ・自分の定期量を見極めたり、好き嫌いはなく、体調などに応じて食事の量を調整したりする力をつける。…S	・体育の授業の準備運動等において、体力を高める運動を計画的に実施する。また、単元に応じた補強運動も行う。 ・食事の量の調節について指導したり、委員会活動を通じて、定期的に食事の大切さを伝えたりする。	・2学期末に実施する体力テストの学校平均が全国平均を8種目中6種目以上上回る。 ・4月～12月の消費率の平均が4%を下回る。 ・学校生活アンケート「盛り付けられたものは残さず食べきっている」の項目で80%を上回る。	B	B		①12月に2回目の体力テストを実施した。全国平均を8種目中6種目以上上回ったのは、1年男子と2年男子だけであった。1年女子、2年女子は1学期と比べると平均値が多くなった。3年生は全体的に平均を下回る結果となった。体育の授業における運動量では、体力・筋力・柔軟性は高めることは難しい。部活動と協力していくことで高められると考えられる。今後は、体育の授業で、運動量を確保する工夫や部活動との連携した取組を行っていく。消費率においては、4～11月時点の平均は3.5%で、昨年度の4～12月の平均の5.1%を下回ることができ、給食時間に食べきろうとする意識が見られた。しかし、冬季の牛乳の残りが多くて、今後は給食委員会でも何らかの取組を行っていく。	
		②生活リズムの確立と自立的な健康づくりに努める。		・昨年10月に実施した生活アンケートの結果、23時までに就寝している生徒が38.5%と就寝時刻が遅い傾向にある。…S ・メディア使用のルールを決めている家庭は61.3%で38.7%の家庭がメディアを自由に使用させている。…S	・生活リズムを意識し、メディアコントロールができる。…S ・23時までに就寝する。…S	・保健体育委員会がメディア使用ルールについて呼びかけ、チェック表で確認する。 ・学校オリエンテーションの際に、保健体育委員長が23時までに寝ることを伝える。 ・生活リズムを整えるように、担任が学級で指導を行う。 ・生活リズムが乱れている生徒に養護教諭が個別指導を行う。	・保健体育委員会のチェック表でメディア使用ルールを80%以上の生徒が守る。 ・生活アンケートで60%以上が23時までに就寝すると回答する。	B	B	B	②6月に実施したノーメディアチャレンジでは、自分が設定した目標を90%以上の生徒が守れたと回答した。11月に行ったメディアコントロールチャレンジでは、自分が設定したメディア使用時間を41.5%の生徒が守ったと回答した。また、生活アンケートでは、65.4%の生徒が23時までに就寝していることがわかった。学校版の講演やノーメディアチャレンジが生活リズムづくりのきっかけとなっている。今後も生活アンケート結果等の情報共有を行うとともに、継続的に啓発・指導を実施し、次年度は地域や小学校と連携した取組も行っていく。	
4	教育上の諸課題の解決	①特別支援教育の充実を図り、支援を要する生徒個々の成長を促す指導に努める。	現状	・特別支援担当者が定期的に開催されたことで生徒の状況の共通理解、情報共有ができていた。…T ・交流学級の活動や授業に参加できていない特別支援学級の生徒が4割程度いる。…S ・卒業後の進路について具体的な見通しを持っていない生徒が多い。…S	・インクルーシブ教育システムを構築することで、交流学級での活動に特別支援学級の生徒が参加しやすい仕組みができている。…T ・卒業後のイメージが持てる進路指導が行えており、生徒一人一人が将来への見通しを持っている。…T、S	・特別支援担当者の定期開催を継続する。 ・特別支援学級担任・教科担当者を学期に1度は開催する。 ・個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用する。	・交流学級の授業に参加できない生徒が減少する。 ・学期末懇談を利用して早めの進路目標を確認するなど、進路の実現に向けた支援が充実している。	B	B		①隔週の特別支援担当者会や臨時の教科担当者会などで情報交換や情報共有ができた。全体的に落ち着いた経過を辿っている生徒が多いが、交流学級の授業に出られなかったり、授業に前向きに参加できなかったり、指導が困難な生徒もいる。担任任せにならないように学年間との連携を取り生徒に対応していく。また、外部機関とも適宜連携をとるようになっている。保護者との支援会議もこれまでおり計画的にこまめに行う心がけていく。1、2年生については、進路実現に向けて、学期末懇談を利用して本人と保護者に進路に関わる具体的な話をしていく。	
		②長期欠席の未然防止に努め、不登校生徒の減少を図る。		・不登校生徒の個々の状況が多岐にわたっており、それぞれに合った対応が十分にできていない。…T ・相談室、SCとの関わりの中で改善の見られる生徒もあるが、長期欠席の生徒は増加傾向にある。…S ・学年や担任の取り組みにより継続的な繋がりは持っているが、目に見える変化は困難な状況にある。…S	・欠席が続いているそれぞれの生徒が自分にあった形で自分の目標を設定し、その実現に向けて取り組んでいる。…S ・新規の長期欠席生徒が出ない。…S ・家庭に引きこもっている生徒もすべて何らかの外部機関につながっている。…S	・不登校担当者会(隔週)や学年会(月1回)等の定期的な情報交換の場を持ち、共通理解を図るとともにその対応策を検討する。 ・一人一人の生徒が学級の中で他との繋がりが自己肯定感、自尊感情を持てるような学年、学級経営を行う。 ・授業と家庭をつなぐためのICTの活用。	・新規の長期欠席者が出ていない。 ・完全に外部との関係が持てない生徒がいない。 ・それぞれの生徒の進路希望が100%実現する(3年生)。	B	B	B	②隔週で不登校担当者会を持ち、情報共有をして、対応を協議することができた。すべての生徒が学校とつながっており、また、外部機関、医療との連携を取ることができた。生徒一人一人の状況に対応が多岐に渡り、それぞれに合った支援が十分にできなかった。新規の長期欠席者も出現してしまっている。これまで以上にアセスメントシートを活用するなど、より細やかな見取りが必要である。	
		③郷土芸能、ふるさと探訪、職場体験等、地域の教育的資源をいかした活動を通して、地域に貢献できる生徒の育成に努める。		・1年生郷土芸能体験を1学期に実施したことにより、その後、地域行事に参加する生徒が増えた。…S ・1年生は総合的な学習の時間において、地域との関わりが多く、「ふるさと」について関心を持つ場面があるが、学年が上がるにつれて活動が減っていく傾向がある。…T ・地域のボランティア活動や地域の行事に生徒が参加する機会がある。…S	・ふるさとを大切にし、地域の一員として、地域に貢献しようとする気持ちを持つことができる。	・総合的な学習の時間のねらいのひとつであるキーワード「ふるさと」について、3年間をおとてどのような学習をしていくのか、つながりのある学習計画を立てる。 ・湯梨浜町で募集しているボランティア活動やその様子を生徒に知らせる。 ・ふるさとについての生徒アンケートを実施する。	・学校生活アンケート「今自分が住んでいる地域や湯梨浜町のことが好きですか」の項目で、肯定的評価が90%を上回る。 ・学校生活アンケート「今自分が住んでいる地域の行事があったときには参加している」の項目で、肯定的評価が50%を上回る。	B	B		③12月実施の学校生活アンケートの「今住んでいる地域や湯梨浜町のことが好きである」の肯定的評価は89.2%で、目標値をわずかに下まわり、「町内の行事に積極的に参加している」の肯定的評価が68.7%で、目標値をまわった。地域の教育資源を活用し、地域の方々と交流し、地域行事に参加する生徒もやや増えてきている。地域に貢献する気持ちを持てるために、今後も総合的な学習の時間を通してふるさとについて学習し、地域の方々との交流を深める機会を計画的に進めていく。	

〔評価の基準〕 A:十分達成されている(目指す姿の80%以上)、B:達成されている(60%以上)…改善の余地あり、C:取り組まれているが、成果が十分でない(40%以上)…方策の見直し、D:取組が不十分(40%未満)